



I-OWA マンスリーセミナー講演より 資産運用の対象としての「金」

講演: 津金 眞理子、レポーター: 赤堀 薫里

金というと、みなさん、知らない人はいないと思いますが、実は、シンプルでありながらかなり奥深く、いろいろな側面を持つ投資対象であり、かつ、モノでもあります。同じ商品でも、石油や原油のように燃やせば無くなるものや、食べたら無くなる農作物とは異なり、金はいったん掘り出すと腐食せず、そのまま残ります。金の歴史は 2 千年、3 千年と言われ、一度、採掘されると基本的に無くならず地上に留まっています。

今まで掘り出した金の全体量は、実は21メートル四方の大きさに収まってしまうくらいの量しかありません。現存している形としては、ジュエリー等の宝飾品関係が半分。金の歴史は金貨から始まる金本位制があり、通貨としての側面や、基軸通貨であるドルと金が交換できるという時代もありました。公的部門では、世界の中央銀行が約2割弱の金を持っています。一方、民間部門は、金貨や金地金のような投資対象として約2割が持たれています。その他としては、産業用として14%。昔は金歯が多かったのですが、今は産業用では半導体に一番多く使われています。これが現存する金の内訳になります。



次はストックではなく、フローを見てみましょう。金が新しく鉱山から掘り出され、生産される分が、年間3千トンあります。金の鉱脈が減ってきていると言われており、日本でも商業ベースで生産されているのは、九州の菱刈鉱山1か所のみです。金にはこのように新しく生産される分と、既存の金を溶かしリサイクルしていく分と2種類あります。金というと、生産は南アフリカというイメージですが、今は生産量で4位か5位です。今一番多い国は中国、次にアメリカ、ロシア、オーストラリア



長期投資仲間通信「インベストラيف」

が同じ位の量です。なかなか新しい鉱脈がなく、地下の 3,000～4,000 メートルまで掘らないと採れない為、非常に貴重な資源となります。

リサイクルは、金の価格が上昇してくると、今まで眠っていたものを売りに出す動きが出てくる為、増えてきます。また、日本ではあまりありませんが、お金に困って換金するというリサイクルも起こってきます。年間トータルで 4,000 トン位になります。

国別で見ると、一番金を消費している国は、インドと中国で全体の半分を占めています。両国共大消費国であり、文化的、宗教的、結婚やお祭りで金を購入します。インドは、金融機関が発達していないので、預金の代わりに金貨を買うというような貯蓄の手段という文化が残っています。日本も 1980 年代は、世界の中でもトップレベルに入る金の好きな国で、かなり買われていましたが、今は、昔、買った金貨を奥様が換金している為、統計で見ると、輸出超になっている唯一の国です。金の需要は西から東へ、アメリカからアジア圏へ移ってきています。

インドと中国は、どちらも金への規制緩和が行われています。中国では 2013 年、価格が下がった時に、ショーケースの金が全て無くなる爆買が起きました。逆にインドは一時的な現象だと思えますが、少し減ってきています。インドは金を生産していない為、殆んど輸入しています。インドの輸入品で一番多いのは原油、2 番目に金です。貿易赤字、経常赤字が膨らみ、経済をどうしようかという所で、2 番目に多い金に対する輸入関税を 1%から 10%まであつという間に引き上げていきました。また、80 輸入したら 20 輸出しなければならないというルールを作るなど、金の輸入を抑制する政策が最近まで取られていました。しかし、新しい首相になり、経済も好転したことで 2015 年にはこの規制が解除されました。結婚時や貯蓄として金を買うという伝統もあるので、一時的な政策で抑制しても、いずれ元に戻るのではないかとされています。

この後、金の ETF について、中央銀行が金価格を押し上げる役割を果たしていること、また後半では、投資の大原則である分散を、リスク管理の観点で金がどういう役割を果たしてくれるのか、ポートフォリオにおける金投資の役割をお話いただきました。